

令和6年度（2024年度）

広島平和の旅 報告集

令和6年8月5日（月）～8月6日（火）



「原爆ドーム 1/100」 広島平和記念資料館

西東京市

も く じ

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって	1
平和宣言	2
平和への誓い	4
参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子	5
被爆体験伝承者による講話	8
主な見学先ガイド	9
広島平和記念公園 周辺ガイドMAP	11
感想文	12
非核・平和都市宣言（西東京市）	23

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって

西東京市は、平成 13 年（2001 年）1 月 21 日、旧田無市と旧保谷市との合併と同時に、「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年（2002 年）1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行い、毎年4月12日の「西東京市平和の日」をはじめとした様々な機会に、戦争体験を次世代に継承する取り組みや、平和の意義を考えていく事業を行っています。

被爆都市へ公募市民と共に訪問する事業は、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度（2001 年度）から実施しています。

広島・長崎への原爆投下、そして終戦から 79 年が経過しました。戦争を知る世代が次第に少なくなり、戦争の記憶が薄れることが危惧されています。

今年は合計 5 人の市民の方々が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話等をとおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期に広島を訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

この報告集は、旅の様子や参加者の皆さんが得たことを多くの方に共有していただけるよう纏めたものです。この報告集が、平和を考えるきっかけになれば幸いです。

令和6年8月

西東京市

平和宣言

皆さん、自国の安全保障のためには核戦力の強化が必要だという考え方をどう思われますか。また、他国より優位に立ち続けるために繰り広げられている軍備拡大競争についてどう思いますか。ロシアによるウクライナ侵攻の長期化やイスラエル・パレスチナ情勢の悪化により、罪もない多くの人々の命や日常生活が奪われています。こうした世界情勢は、国家間の疑心暗鬼をますます深め、世論において、国際問題を解決するためには拒否すべき武力に頼らざるを得ないという考えが強まっていないでしょうか。こうした状況の中で市民社会の安全・安心を保つことができますか。不可能ではないでしょうか。

平和記念資料館を通して望む原爆死没者慰霊碑、そこで祈りを捧げる人々の視線の先にある原爆ドーム、これらを南北の軸線上に配置したここ平和記念公園は、施行から今日で75年を迎える広島平和記念都市建設法を基に、広島市民を始めとする平和を願う多くの人々によって創られ、犠牲者を慰霊し、平和を思い、語り合い、誓い合う場となっています。

戦後、我が国が平和憲法をないがしろにし、軍備の増強に注力していたとしたら、現在の平和都市広島は実現していなかったのです。この地に立てば、平和を愛する世界中の人々の公正と信義を信頼し、再び戦争の惨禍が起こることのないようにするという先人の決意を感じることができるはずです。

また、そうした決意の下でヒロシマの心を発信し続けた被爆者がいました。「私たちは、いまこそ、過去の憎しみを乗り越え、人種、国境の別なく連帯し、不信を信頼へ、憎悪を和解へ、分裂を融和へと、歴史の潮流を転換させなければなりません。」これは、全身焼けただれた母親のそばで、皮膚がむけて赤身が出ている赤ん坊、内臓が破裂して地面に出ている死体…生き地獄さながらの光景を目の当たりにした当時14歳の男性の平和への願いです。

1989年、民主化に向けた市民運動の高まりによって、東西冷戦の象徴だったベルリンの壁が崩壊しました。かつてゴルバチョフ元大統領は、「われわれには平和が必要であり、軍備競争を停止し、核の恐怖を止め、核兵器を根絶し、地域紛争の政治的解決を執拗に追求する」という決意を表明し、レーガン元大統領との対話を行うことで共に冷戦を終結に導き、米ソ間の戦略兵器削減条約の締結を実現しました。このことは、為政者が断固とした決意で対話をするならば、危機的な状況を打破できることを示しています。

皆さん、混迷を極めている世界情勢をただ悲観するのではなく、こうした先人たちと同様に決意し、希望を胸に心をつにして行動を起こしましょう。そうすれば、核抑止力に依存する為政者に政策転換を促すことができるはずです。必ずできます。

争いを生み出す疑心暗鬼を消し去るために、今こそ市民社会が起こすべき行動は、他者を思いやる気持ちを持って交流し対話することで「信頼の輪」を育み、

日常生活の中で実感できる「安心の輪」を、国境を越えて広めていくことです。そこで重要になるのは、音楽や美術、スポーツなどを通じた交流によって他者の経験や価値観を共有し、共感し合うことです。こうした活動を通じて「平和文化」を共有できる世界を創っていきましょう。特に次代を担う若い世代の皆さんには、広島を訪れ、この地で感じたことを心に留め、幅広い年代の人たちと「友好の輪」を創り、今自分たちにできることは何かを考え、共に行動し、「希望の輪」を広げていただきたい。広島市は、世界166か国・地域の8,400を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民社会の行動を後押しし、平和意識の醸成に一層取り組んでいきます。

昨年度、平和記念資料館には世界中から過去最多となる約198万人の人が訪れました。これは、かつてないほど、被爆地広島への関心、平和への意識が高まっていることの証しとも言えます。世界の為政者には、広島を訪れ、そうした市民社会の思いを共有していただきたい。そして、被爆の実相を深く理解し、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という平和への願いを受け止め、核兵器廃絶へのゆるぎない決意を、この地から発信していただきたい。

NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議が過去 2 回続けて最終文書を採択できなかったことは、各国の核兵器を巡る考え方に大きな隔たりがあるという厳しい現実を突き付けています。同条約を国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石として重視する日本政府には、各国が立場を超えて建設的な対話を重ね、信頼関係を築くことができるよう強いリーダーシップを発揮していただきたい。さらに、核兵器のない世界の実現に向けた現実的な取組として、まずは来年 3 月に開催される核兵器禁止条約の第 3 回締約国会議にオブザーバー参加し、一刻も早く締約国となっていただきたい。また、平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、在外被爆者を含む被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆79周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、改めて被爆者の懸命な努力を受け止め、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。皆さん、希望を胸に、広島と共に明日の平和への一步を踏み出しましょう。

令和 6 年（2024年） 8 月 6 日

広島市長 松井 一寛

平和への誓い

目を閉じて想像してください。

緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。

79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。

立ち昇る黒味がかかった朱色の雲。

人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きてくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。

平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。

そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合いましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年（2024年）8月6日

こども代表 広島市立祇園小学校
広島市立八幡東小学校

6年 加藤 晶
6年 石丸 優斗

参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

参加者

○村岡 波奈さん ○藤牧 好子さん ○清水 碧海さん
○藤井 祥子さん ○藤井 俊之介さん

計5人

旅程

■1日目 8月5日（月）		■2日目 8月6日（火）	
時 間	内 容	時 間	内 容
08：30	東京駅より新幹線で広島へ	08：00	平和記念式典参列、献花
12：27	広島駅到着	10：00	本川小学校平和資料館 見学
13：00	原爆ドーム、原爆の子の像、爆心地、広島平和記念資料館、旧日本銀行広島支店 見学	14：18	広島駅より新幹線で東京へ
		18：15	東京駅到着 解散

事前学習会

7月29日（月）の午前10時から、広島平和の旅がより意義深いものになるように、事前学習会を行いました。

旅の主旨、行程、報告会等についての説明に加え、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の山本会長をお招きし、自身が広島に訪れた経験を交えながら、広島と長崎に落とされた原爆について話していただきました。

また、事前学習会のなかでは、被爆体験の伝承活動をしている野田信枝さんをお招きし、末岡昇さんの被爆体験を通して、原爆がもたらす被害とその凄惨さを改めて実感することができました。（※講話の詳細は、P.8「被爆体験伝承者による講話」をご覧ください）。

○1日目

広島へ出発

8月5日月曜日の朝、東京駅に集合し、新幹線で広島へ向かいました。今年は全国的に猛暑が続き、当日の広島も大変暑く、夏空に浮かぶ入道雲が平和の旅一行を出迎えてくれました。

原爆ドーム、原爆の子の像、平和記念資料館の見学

広島に到着後、荷物を預け、路面電車に乗り、平和記念公園へ向かいました。

原爆ドーム前駅で下車し、目の前に平和記念公園が広がります。

目の前の原爆ドームの存在感に圧倒され、爆心地で爆発の瞬間を思い、原爆の子の像では、全国各地から送られてくる折り鶴に込められた祈りを感じます。それぞれの思いを胸に鐘を鳴らし、祈りを捧げました。

平和記念資料館では、原爆投下時のプロジェクションマッピングや、遺品、被爆者や遺族の言葉などにより、被害の凄惨さや核兵器の罪深さ、被爆の実相を来館者へ強く訴えかけ、参加者は真摯に受け止めていました。



○2日目

平和記念式典への参列

翌6日は、平和記念式典に参列しました。式典では、原爆死没者の名簿が奉納され、原爆が投下された午前8時15分には、平和への祈りと被爆者への慰霊の念を込めて、参列者一同が黙とうを捧げました。

式典後は、犠牲となった方々の冥福と平和への願いを込めて、参加者一同で慰霊碑に献花しました。



本川小学校平和資料館の見学

式典後は、爆心地に最も近い小学校として、被爆した状態のまま校舎の一部が保存されている本川小学校平和資料館を見学しました。

今回は小・中学生の見学者も多く、本川小学校の資料には、共感する部分も多かったのではないかと思います。



〇終わりに

厳しい暑さの中で行われた広島平和の旅でしたが、参加された方々のご協力によって、無事に全行程を終えることができました。今回の旅が、平和な社会を築くための糧になることを祈りつつ、参加者一同が帰路につきました。



被爆体験伝承者による講話

講師 野田^{のだ} 信枝^{のぶえ}さん

日時 令和6年7月29日（月） 午前10時00分～11時00分

野田さんは、2020年より広島へ通い「被爆体験伝承者」の養成研修に参加、2023年2月に被爆体験伝承者の認定を受け、同年6月から平和記念資料館で伝承講話を行っています。野田さん自身は戦後生まれなので戦争も原爆も体験していませんが、野田さんの父・母・祖父母はみな原爆にあった被爆者です。今回は被爆者である末岡昇（すえおか）さんから受け継いだ被爆体験や平和への思い、また、被爆の実相などをお話していただきました。



末岡さんは1937年に生まれ、原爆投下時、爆心地から800メートルの西新町（現在の土橋町）に祖父母をはじめ大きな旅館を営みながら10人家族で暮らしていました。広島も空襲の心配があるため、7月の末に母は生まれたばかりの弟と幼い妹を連れ、宮島の近くの親戚の家に一時避難をし、勤めのある父と学校がある末永さんは広島に残りました。

原爆投下の前日、8月5日に末岡さんは祖父の反対を押し切り母に会いに行きます。帰りそびれて6日の朝、ぼんやりと、はるか20km先の広島を見ると、突然見たこともない強烈な閃光を目撃しました。続いて10秒ぐらい後に「ドーン」という鈍い音が響きます。

その閃光の瞬間に広島が壊滅して何万人もの命が奪われたのだと思うと、身の毛がよだつ思いです。

原爆投下から10日以上経ち、ようやく瓦礫の下敷きになった家族の遺体を見つけることができました。祖父母の遺体をその場で火葬する際、母が「ほら、これがお爺ちゃんだよ」と言いますが、目の前にある遺体が、5日の朝に玄関まで見送ってくれた祖父だとは、末岡さんにはとても信じられませんでした。魚の腐ったような臭いが強く印象に残り、何十年経っても、似たような臭いをかぐと、あの時の情景が鮮明に脳に蘇るそうです。

生前、末岡さんは「絶対に核兵器は廃絶させなければならない。核兵器の悲劇を語り継ぐことが、核兵器廃絶につながる道だと信じています。」と語っています。

参加者は、野田さんのお話を聞き入っていました。原爆の恐ろしさと、戦争の悲惨さを痛感し、平和の重要性を再認識したようでした。

主な見学先ガイド

●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。



●広島平和記念資料館

原爆の被害の実態を伝える資料を収集・展示し、広島で起こったこと、平和の尊さと核兵器の脅威を紹介しています。



●原爆ドーム

チェコの建設家ヤン・レツルの設計により、大正4年（1915年）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東160mの上空約580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。

平成8年（1996年）、ユネスコの世界遺産に登録されました。



●原爆死没者慰霊碑(公式名:広島平和都市記念碑)

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰霊碑は、原爆犠牲者の霊を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。



●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの霊を慰め、世界平和を呼びかけるため、昭和 33 年(1958 年)に建設されました。たくさんの千羽鶴が捧げられています。



●本川小学校平和資料館

爆心地に最も近い学校として、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し、被爆の「証」として保存されています。「展示室」には、被害の様子が載った写真や、被爆した遺物があります。



広島平和記念公園 周辺ガイドMAP



感 想 文

広島平和の旅に参加した皆さんが、それぞれの想いを胸に、被爆地広島を訪れました。そして、たくさんのことを見て・聞いて・感じてきました。

ここには、広島平和の旅を通して印象に残ったことを、ありのままに書いていただきました。

今回、旅に参加した皆さんには、広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

平和の旅をおえて

村岡 波奈

私は、4歳から9歳まで広島に住んでいました。保育園の頃は、原爆の本を読んだり、鶴を折ったりしてました。小学校では、8月6日に学校に登校し、8時15分に黙とうをして、平和学習をしました。保育園や小学校の頃に原爆や戦争の話をたくさん聞いていたのである程度、戦争の知識はあるほうだと思っていました。だけど、今回旅に参加して、私も知らなかったことが学ぶことができました。

特に印象に残っているのは、平和記念資料館でみた「行ってくるよと言って別れたのが最後でした」という言葉が一番印象に残りました。この言葉をみたときすごく悲しくなりました。私は、最後の言葉は、感謝の言葉をつたえたいです。だけど、この人はもっと生きたかったと思うし、伝えたい言葉もたくさんあったと思うのにこんな形で、最後になるのは、絶対にあってはならないことだと思いました。だけど、世界中では、戦争をして、くるしんでいる人たちがいます。その人たちにできることは、わからないけど、1秒でもはやく、戦争がおわることを願っています。



旅に参加する前の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

- ・原爆ドーム
- ・宮島
- ・もみじまんじゅう
- ・瀬戸内レモン
- ・かき
- ・カーフ
- ・お好み焼き

旅に参加した後の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

- ・原爆
- ・原爆ドーム
- ・お好み焼き
- ・平和
- ・路面電車

孫と一緒に参加できる。ことになり、少し浮足立つ自分でしたが、緊張する気持ちを感じながらの出発でした。降り立った広島はむしむしした暑さ、駅前が開発中。ビルが建ち並び、車と路面電車の行き交う街並。ここが本当にあの痛ましい惨事のあった場所なのか。と思いつつ進む。行き先の原爆ドーム、平和記念公園、原爆の子の像、見聞きして知っていた気がしていたのに、実際にそこへ行くと居堪れない気持ちが込み上げ胸がしめつけられる思いでした。

資料館には目をおおいたくなる展示、でもこれが現実にあったことと、再確認しました。

式典では多くの人が祈っていました。願っていました。平和な世の中を。自分もその中の小さな 1 つにすぎません。

穏やかな日々を送れることを改めて感謝します。

一緒に参加できた。藤井さん、村岡さん。コミュニティ課の平沼さん、村田さん、添乗員の石井さん、お世話になりました。ありがとうございました。俊之介君、大人と一緒にの行動、頑張ったね。あなたのおかげで皆が楽しく過ごせましたよ。碧海君、人の苦しみを感じられた良い旅でしたね。平和についてこれからも考えてください。



旅に参加する前の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

原爆ドーム

平和式典

宮島(厳島神社)

旅に参加した後の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

駅前開発(ビル群)

路面電車

広島の旅

清水 碧海

8月5日、平和の祈り広島への旅が始まった。

早朝の新幹線に乗るのは早くてつらかった。4時間かかって着いた広島はとてもむし暑かった。

原爆ドームへ着いたとたん息苦しさを感じ、いたたまれない気持ちになった。資料館では目をおおいたくなるようなこうけいがつづいた。

8月6日、平和記念式典に参加。

ものものしい警備と多くの人、かなしみ、くるしみを乗り越えた人々の気持ちを思い、これからも平和がつづくといいなと思った。



旅に参加する前の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

原爆
原爆
原爆
平和公園
折戸倉庫

おこのみん
カキ
広島カーフ

旅に参加した後の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

被災に暴して残った建物
原爆
資料館
足各面電車
ビル

平和への願い

藤井 祥子

私はこれまで広島への原爆投下について、テレビや教科書でしか学んだことはありませんでした。今回広島平和の旅に参加する前までは、原爆は過去のもの、と他人事の様にも思っていました。

8月6日8時15分、1分間の黙祷を捧げ目を閉じると何とも言いようのない感覚に襲われました。79年前のこの時間に普段の生活が一瞬で奪われ、同時に多くの命が失われてしまった事。色々な思いが重なり1分間がもの凄く長く感じ、心が締め付けられる思いでした。

平和記念式典の前日、原爆ドームを見学し、その後に訪れた平和記念資料館で見た実際の焼け残った学生服、三輪車、被爆した傷跡など、被爆の惨状を見た事が私の心に一番残っています。私も実際子どもが4人いるので、被爆した子ども達の手記を読んだり、放射能で頭髪が抜けた子どもの写真を見るのが一番辛かったです。夢あふれる子どもたちの命を奪う原爆は戦争が起きた為に投下されてしまいました。戦争はこんなにも悲しく残酷なものです。こんなに人々が残酷になるものはもう二度とあってはいけないと改めて感じました。

今回のこの旅は、末っ子の小学2年生の息子と参加させていただきました。小学2年生には少し早いかな？とも思いましたが、彼が高学年になって日本の歴史や戦争について学ぶ際に今回行った平和記念資料館や原爆ドームを思い出し、見た事や感じた事をお友達に伝える事が少しでも出来たらいいなと一緒に行く事を決めました。

世界中がいつまでも平和であるように核兵器の廃絶が必要です。誰もが争いもない平和な世界を望んでいます。そのために一人一人が思いやりの気持ちを忘れず自分勝手な思いだけで行動することのない世界がくるのを願うばかりです。今、当たり前のように生活できることに感謝しなくてはいいなとこの旅を通して強く感じました。

旅に参加する前の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

- 原爆ドーム
- 広島カープ（カープ女子が多い）
- お好み焼きに 焼きそばが入っている。

旅に参加した後の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

- 駅付近は 新しいビルが並び、
平和記念公園の辺りは 原爆後も残った建物がある。路面電車が走っていて、
古きよき街並み。
- もみじまんじゅうが美味しかった。

はじめての広しま

藤井 俊之介

ぼくはおかあさんといっしょに、このたびにさんかしました。はじめていった広しまで見たげんばくドームにびっくりしました。げんばくドームのやねがなくなっていて、たてものもはんぶんになっていました。

つぎに見たのはへいわのかねです。これからもへいわがつづきますように、こころをこめてかねをならしました。

8月6日8じ15分に広しまにげんばくがおちて、ことしで79年たちました。へいわきねんしきてんにさんかしました。たくさんのいのちがうばわれてしまったげんばくは、ほんとうによくないものです。

さいごになくなったひばくしゃに花をあげることができてよかったです。



旅に参加する前の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

おこのみやき

・とうきょうよりいなか

・やきゅうがっつい。④

旅に参加した後の広島イメージ

令和6年度 広島平和の旅

・3人で ンでんがっはしている。

・けんぱくドームが、たてもののい
んぶんのこっている。

・ガリニくの人があま。

非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを

世界に広く訴えるために

非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日

西 東 京 市



「広島平和の旅」報告集

令和6年8月

編集・発行

西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課